令和6年度 第3回国民健康保険運営協議会 会議録（要約）

開催日時	令和7年1月22日（水）18:30～19:15
開催場所	江別市民会館37号室
出席委員（9名）	中川 雅志、清水 雅彦、笹浪 哲雄、伊藤 公一、歸來 みどり、佐藤 誠一、堀井 弘至、鈴木 篤、河合 圭
欠席委員（2名）	佐々木 浩子、藤谷 満雄
事務局（6名）	健康福祉部長、健康福祉部次長、国保年金課長、国保賦課係長、国保年金課主査2名
議事	<p>1 開 会</p> <p>2 報 告 事 項</p> <p>（1）令和7年度国民健康保険事業費納付金確定額について</p> <p>（2）令和7年度江別市国民健康保険特別会計予算（案）について</p> <p>3 協 議 事 項</p> <p>（1）江別市国民健康保険税の課税限度額の改定について</p> <p>（2）江別市国民健康保険税の税額の改定について</p> <p>4 そ の 他</p> <p>5 閉 会</p>

中川会長	<p>ただいまから、令和6年度第3回江別市国民健康保険運営協議会を開会いたします。</p> <p>夜の会議のため、速やかな議事の進行について心がけますので、皆様ご協力をお願いいたします。</p> <p>また、傍聴者2名の入室を許可いたします。</p>
中川会長	<p>では、2 報告事項（1）「令和7年度国民健康保険事業費納付金確定額について」を議題といたします。</p> <p>事務局から報告願います。</p>
国保賦課係長	<p>それでは、報告事項（1）令和7年度国民健康保険事業費納付金確定額についてご説明いたします。資料1ページをご覧ください。</p> <p>前回の国保運営協議会において、事業費納付金の概算額についてお示しましたが、このたび北海道から当該納付金の確定額が通知されました。金額は、「1令和7年度事業費納付金確定額」にお示ししておりますとおり、30億5,470万1千円となりました。前回の運営協議会にてお知らせしましたとおり、概算額から増額となっております。</p> <p>概算額からの増額要因を右の囲みで示しております。1点目といたしまして、高額医療費負担金の基準額の引上げ、ということで、国及び北海道が一部負担している高額な医療費について、対象の医療費が1件80万円超から90万円超に引き上げられることに伴い、北海道の歳入が減ることによるものです。</p>

	<p>2点目といたしまして、今後の納付金平準化を目的とした歳入額の留保、ということで、国から北海道への前期高齢者交付金が例年より多かったことに伴い納付金が減少しましたが、今後の納付金の平準化を目的として北海道が歳入額を留保することにしたことによります。</p> <p>次に下段の「2江別市国保事業費納付金確定額、保険税収納必要額等」ですが、北海道から示された市の事業費納付金確定額は、①に記載のとおり、30億5,470万1千円で、②の個別歳入、歳出を足し引きした③保険税収納必要額は、23億9,017万4千円となります。</p> <p>一方、現行税率による⑥収納見込額は、収納実績等を踏まえ、20億9,450万1千円と見込んでおり、③保険税収納必要額との差は、下の⑦2億9,567万3千円の不足となるものです。</p> <p>下段右側に記載のとおり、令和6年度末での基金残高の見込み額は、2億4,135万4千円であり、収納不足見込額を補いきれず財源不足となるため、令和7年度に国保税の見直しが必要であることを、改めて確認いたしました。</p> <p>報告は以上です。</p>
中川会長	<p>ただいま事務局から、報告事項、令和7年度国民健康保険事業費納付金確定額についての報告がありましたが、ご意見・ご質問をお受けいたします。</p>
委員一同	<p>(質疑なし)</p>
中川会長	<p>ないようですので、本件を終わります。</p>
中川会長	<p>次に、報告事項(2)「令和7年度江別市国民健康保険特別会計予算(案)について」を議題といたします。</p> <p>事務局から報告願います。</p>
国保年金課主査	<p>「報告事項(2)令和7年度江別市国民健康保険特別会計予算(案)について」ご報告いたします。</p> <p>資料の2ページをお開き願います。</p> <p>令和6年度決算見込額及び令和7年度予算の編成方針につきましては、12月16日開催した運営協議会において報告したところですが、1月15日に北海道から納付金確定額が示され、前回協議いただいた保険税額の改定案を基に保険税率を算出し、令和7年度予算見込額を積算しております。</p> <p>なお、今回お示した予算(案)につきましては、本日運営協議会の協議を経て、理事者査定ののち、議会に提出する予算(案)となりますので、今後も変動する場合がありますことをお含みおきください。</p> <p>まず歳入からご説明いたします。</p> <p>令和7年度予算見込額Cの列をご覧ください。行番号1番、国民健康保険税は、保険税率の改定により19億2,279万1千円と見込んでおります。詳細につきましては、協議事項(2)「江別市国民健康保険税の税額の改定について」でご説明いたします。</p> <p>行番号5番、道支出金は、算定の基礎となる保険給付費の支出状況などを基に算出した結果、91億1,921万円となっております。このほか過去の実</p>

	<p>績等から、一般会計繰入金やその他収入などを積算しております。</p> <p>行番号7番、基金繰入金は、基金残高を活用するため、1,800万円を計上しております。</p> <p>こちらにつきましても、協議事項(2)「江別市国民健康保険税の税額の改定について」でご説明いたします。</p> <p>次に歳出についてご説明いたします。</p> <p>行番号12番、保険給付費については、数年の実績をもとに推計し、89億4,825万5千円と見込んでおります。</p> <p>なお、保険給付費の財源については、北海道から全額が保険給付費交付金として交付されますので、見込み額以上に保険給付費の支払が生じたとしても、歳入額不足とならないようになっております。</p> <p>行番号13番、国民健康保険事業費納付金については、先ほどご説明したとおり、確定金額の30億5,470万1千円を計上しております。</p> <p>行番号16番、基金積立金は、基金の運用利子を積み立てております。</p> <p>この結果、予算総額は122億5,183万7千円となっております。</p> <p>報告は以上です。</p>
中川会長	<p>ただいま事務局から、報告事項(2)「令和7年度江別市国民健康保険特別会計予算(案)について」の報告がありました。ご意見・ご質問をお受けいたします。</p>
堀井委員	<p>列番号Bの令和6年度決算見込額において、第2回運営協議会でお示しいただいた資料と歳入歳出は一致していますが、行番号21の基金残高が前回の資料から2,674万円減少している理由をお伺いいたします。</p> <p>また、今回、お示しいただいた基金残高2億4,135万4千円が、令和6年度基金残高の確定数値となるのかお伺いいたします。</p>
国保年金課主査	<p>基金残高の金額の違いにつきましては、行番号19の歳入歳出差引額の計上の有無によるものです。</p> <p>行番号19の歳入歳出差引額については、現在の見込額ですので、余剰額として確定していないものですので、実際の基金残高は、今回の行番号21の額が確定額となるため、修正させていただきました。この金額が令和6年度の基金残高となります。</p>
中川会長	<p>よろしいでしょうか。他に質問はありませんか。</p> <p>ないようですので、報告事項を終わります。</p>
中川会長	<p>次に、3協議事項(1)「江別市国民健康保険税の課税限度額の改定について」を議題といたします。</p>
中川会長	<p>前回の会議で、令和7年度の国民健康保険税の課税限度額について、後期高齢者支援金等課税額の課税限度額を22万円から24万円に改定し、施行日は令和7年4月1日とする内容について、江別市長から諮問があり、諮問のとおり改定することについて、承認いたしました。</p>
中川会長	<p>資料の3ページに答申案を記載しております。</p>

	こちらを市長への答申書としたいと思いますがよろしいでしょうか
委員一同	異議なし
中川会長	ありがとうございます。 委員の皆様のご承諾をいただきましたので、そのように市長へ答申させていただきます。
中川会長	次に、協議事項（２）「江別市国民健康保険税の税額の改定について」を議題といたします。
中川会長	こちらも前回の会議で諮問のあったものですが、事務局から提案のありました税額改定の３つのパターンについて、前回の会議では結論が出なかったため、各委員から書面で意見を集約し、その結果を踏まえて今回の会議で結論を出し、答申内容を決定するとしたところです。 集約結果は、事前に皆様に送付し確認いただいたものと思いますが、集約結果を踏まえまして、あらためて事務局から資料の説明をお願いいたします。
国保賦課係長	協議事項（２）国民健康保険税の税額の改定について、ご説明いたします。 資料５ページをご覧ください。 まず、見直しパターンに対する各委員の意見、ということで、前回の協議会で税率改定のパターンについて、後日、文書にて委員の皆様のご意見を頂くこととなり、結果の詳細は先日、皆様に送付したところですが、こちらに概要をまとめさせていただいております。 まず、（１）意見照会として、記載の期間、対象、質問内容を照会し、１０名全員から回答いただきました。 次に、資料６ページをご覧ください。 （２）回答内容として、１パターン①から③に対する主な意見では、皆様からいただいたご意見の主な内容を記載しております。各パターンに対して、肯定的な内容には白丸、心配や疑問がある内容には黒丸を付けております。 毎年度改定するパターン①にいただいた主な意見として、今後の加入者減少、制度改正などにも柔軟に対応できる、また、税負担で考えると公平性がある、との意見がある一方、子ども・子育て支援金のほか、毎年度の税率改定により増額されることに理解を得られるか疑問、といった意見がありました。 次に、７年度に改定し、途中で再度改定するパターン②には、改定しない年度は、子ども・子育て支援金のみ加算なので理解が得やすい、との意見の一方、今後の状況変化に対応しづらいのでパターン①に比べて劣後する、また、結果的に毎年度改定を迫られる可能性がある、といった意見がありました。 最後の令和７年度に改定し、１１年度まで持続させるパターン③には、再度税率見直しが必要となる可能性がある、引き上げ率が最大である、加入時期、加入期間によって税負担に不公平が生じる、との意見がありました。 事務局では、意見をそれぞれ３つに要約していますが、パターン①に対して、肯定的なご意見が最も多い結果でした。 次に、２答申に適しているパターンとして、皆様のご回答を集計いたしまし

た。委員10名の皆様からご回答をいただき、9名の委員からパターン①。1名の委員からパターン②が適しているとの回答をいただき、パターン③と回答された方はいませんでした。なお、パターン②と回答いただいた1名の委員からは、多数の方が賛同するパターンに同意される旨のコメントがありました。

次に、3その他、主な意見についてですが、自由記載いただいた意見の、概要を記載しております。内容といたしまして、いずれのパターンに決定しても、市民への周知が重要である。広報誌のほか、市民向けの説明会や電話相談対応、カラー版でのお知らせなど、きめ細やかな説明が必要である、ということで、加入者への周知に関する内容が主でした。

続いて、資料7ページをご覧ください。

「2令和7年度確定納付金等の状況」、ということで、先ほどの報告事項でも触れましたが、北海道から通知された内容を改めて記載しております。まず、(1)令和7年度事業費納付金確定額ですが、30億5470万1千円となりました。次に、(2)必要な保険税ですが、こちらは、23億9017万4千円となりました。

次に、(3)現行税率と令和7年度標準保険料率の比較では、左側の項目のとおり、上段に現行税率、中段に今回示された令和7年度の標準保険料率、下段にはその差を記載しております。横軸には、医療分、後期分、介護分と、区分ごとの所得割、均等割、平等割を記載し、一番右側にそれらの合計を記載しております。

8ページをご覧ください。

「3確定納付金に基づく改定税率の検討」、として、北海道から提示された納付金確定額と必要な保険税のほか、令和7年度標準保険料率を参考にすること、令和12年度の統一保険料に向けて基金残高を1億5千万円残すこと、余剰額を毎年度の税率の引き下げに活用すること、賦課割合の推移を意識することなど、前回確認した条件を踏まえながら、先ほどのご意見の集約結果から答申に適しているとの回答が最も多かった、パターン①により、令和7年度の税率案を算定いたしました。

令和7年度の改定税率案は、オレンジで囲んだとおり、医療分、後期分、介護分の合計で、所得割13.47%、均等割が42,200円、平等割が38,300円となり、前回お示ししたパターン①の数値よりも若干上がっております。

今回、所得割に小数点以下第2位を初めて設定しましたが、これは、標準保険料率を参考にし、また、令和12年度の統一保険料率にも同様に設定されることを想定していることと、今後、毎年度税率を算定する際に、賦課割合の調整に柔軟に対応できることを目的としております。

続いて、下段の「(2)今後の推計」ですが、前回での説明と同様に、基金残高のうち余剰額9千万円を5か年で割った、1千800万円を毎年、活用するように設定し、最終年度の11年度のg年度末基金残高では、1億5千万円を

	<p>確保するという条件を踏まえております。</p> <p>次に9ページをご覧ください。</p> <p>こちらの「(3) 所得及び世帯ごとの保険税比較(7年度)」では、前回と同様に、現行税率の税額と、令和7年度の改定税率案を採用した場合の税額の比較をしております。前回のパターン①よりも若干税率を上げているため、伴って全体的に税額も上がっています。</p> <p>続いて、10ページをご覧ください。</p> <p>「4モデルケース」での試算例、ということで、改定税率案を用いて、世帯構成、所得の状況などを設定して2つのケースで税額を試算いたしました。例1は、40代夫婦、10代の子1人という構成で、収入は夫の給与所得が276万円という設定で試算すると、年税額が47万1000円となりました。比較のため右に、現行の税率での算定結果も記載しております。</p> <p>例2は70代夫婦で、それぞれ年金収入があり、世帯での総所得額を190万円と設定いたしました。こちらの例2は、年齢要件から介護分が加算されない世帯となっており、年税額は、27万1300円となりました。</p> <p>続いて、11ページをご覧ください。</p> <p>「5石狩管内他市比較」、ということで、(1)税率等比較で、今回、提示いたしました令和7年度の改定税率案と、石狩管内他市の令和6年度の税率を一覧にして表示しております。左の縦軸に、医療分、後期分、介護分のそれぞれの所得割、均等割、平等割とその合計。横軸には、石狩管内の市を表示しております。</p> <p>表の下段に合計を記載しておりますが、この数値をもとに、下段に所得割、均等割、平等割を比較する棒グラフを作成しております。左から水準が高い順に並べており、江別市は、改定により所得割と均等割は、中間程度になり、平等割は最低水準のままでした。</p> <p>右側に(2)モデルケースでの比較、ということで、前のページでお示しした2つのケースの設定で、石狩管内の他市の税率を用いて算出した年税額を棒グラフで比較しております。先程のグラフと同様に、左から水準が高い順に並べており、江別市は、改定による順位の変動も確認できるようにしています。</p> <p>ケースによって異なるものの、江別市は改定により、石狩管内では、中ほどの水準になることが確認できます。</p> <p>説明は以上です。</p>
中川会長	<p>ただいま事務局から、諮問事項の江別市国民健康保険税の税額の改定についての説明がありました。ご意見・ご質問をお受けいたします。</p>
堀井委員	<p>資料10ページのモデルケースでの試算例は、非常にわかりやすいと思いました。</p> <p>そこで、今後答申や市議会への提案を経て、税率の改定となった場合に被保険者に対する周知は、いつ頃からどのような方法で行うのかについて、現時点の計画をお伺いいたします。</p>

	<p>また、被保険者への周知の際に資料 9 ページの一覧表や 10 ページのモデルケースの添付があると理解を得られやすいと考えておりますが、いかがでしょうか。</p>
国保賦課係長	<p>周知の時期及び方法につきましては、3 月末の議決後から周知を行うこととなります。</p> <p>周知方法といたしましては、ホームページ、広報えべつでの掲載や江別市の公式 SNS での発信を予定しているほか、広報えべつの折り込みチラシでの掲載や国保加入者の 40 歳以上の方に発送する特定健診の受診券（18,000 人が対象）にもチラシを同封したいと考えております。</p> <p>さらに、江別医師会にご協力いただければ、医療機関やクリニックにてポスターを掲示したいと思っております。</p> <p>また、内容につきましては、世帯状況別の税率早見表を再度精査し、税額をイメージしやすい早見表を作成し、被保険者へ周知したいと考えております。</p>
堀井委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>私は自治会関係をしておりますので、地区センター等にもポスターの掲示を考えてはいただけませんか。</p>
国保賦課係長	<p>地区センター等の施設に確認し、ポスター掲示を依頼したいと思います。</p>
笹浪委員	<p>3 点お伺いいたします。</p> <p>まず 1 点目、10 ページのモデルケースですが、現行税額と比較すると増額となっております。</p> <p>国民健康保険の納付方法と回数について教えていただけますか。</p>
国保賦課係長	<p>普通徴収であれば、6 月から翌年 3 月までの 10 回で月末を期限に納付書で納付いただくか口座振替となります。</p> <p>また、特別徴収であれば 2 ヶ月に 1 回の偶数月の納付となります。</p>
笹浪委員	<p>特別徴収対象とはどのような方が対象となり、対象世帯の割合は多いのですか。</p>
国保賦課係長	<p>特別徴収とは年金から天引きとなり納付いただく方法で、対象世帯は 3,000～4,000 世帯です。</p>
笹浪委員	<p>わかりました。</p> <p>その場合は、例 1 で普通徴収の世帯は 1 回あたり 5,700 円程度の増額となるのですね。</p> <p>次に 2 点目ですが、10 ページの例は令和 7 年度の改定税率で計算していると思っておりますが、令和 8 年～11 年度についての金額はどうなりますか。</p>
国保賦課係長	<p>令和 8 年度～11 年度の税率については 8 ページの（1）設定税率でお示しさせていただいておりますが、この税率で、モデルケースを計算しているものは資料上には表示しておりません。</p>
笹浪委員	<p>わかりました。各年度で年間どれくらい増額するかわかればと思いました。</p> <p>次に 3 点目ですが、今後、社会保険への加入者が増えることによって、国民健康保険の被保険者が減少されることが予測されます。被保険者が減少した分、税収も減少すると思われませんが、江別市国民健康保険としての運営は、問題な</p>

	<p>く進めていけるのでしょうか。</p>
健康福祉部次長	<p>2点目と3点目をまとめてご説明いたします。</p> <p>まず、令和8年度以降の税率に関しましては、前回の運営協議会の中でも変動要素が大変大きいというご意見があり、事務局でもそのように認識しているとお答えさせていただきました。</p> <p>委員のご指摘のとおり、国民健康保険の加入者自体が国の議論の中で被用者保険に移行していく流れが生じておりますので、今後の保険税率は資料上、北海道が示す現段階の令和12年度の統一保険料に合わせるように示しておりますが、この通りに推移する可能性は低いと考えております。</p> <p>今、お示ししている推計は運営協議会用の資料ですので、この資料を被保険者にご案内するには情報が不十分なため控えさせていただきたいと考えております。</p> <p>また、大きな流れとして被保険者が今後も減少していくことが想定されますので、運営にどのような影響を与えるかについて国の動向について注視していきたいと考えております。</p> <p>今回、委員の皆様からパターン①が制度改正の対応が柔軟対応が可能という理由からご支持をいただいているものと承知しておりますので、国保運営協議会で、毎年度税率を定めていく要素として被保険者数の推移は大きな要素と考えております。</p> <p>また、被保険者の被用者保険の移行により軽減を受けていない被保険者も減少していくと思いますので、それに合わせて北海道から示される標準保険料率というものも年度ごとに大幅に変化していくことが予想されます。</p> <p>そういったものを踏まえながら、年度ごとに適切な国保運営が可能な納付金に対応する国保税額がいくらになるのかをお諮りさせていただきたいと考えておりますので引き続きよろしく願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>10ページのモデルケースについてお伺いいたします。</p> <p>今後、被保険者への周知としてモデルケースを利用する場合、例2の70代夫婦の夫の年金収入が300万、妻が80万となっておりますが、この金額は平均的な金額なのでしょうか。</p> <p>特に、夫の300万円は厚生年金・国民年金以外に、個人年金を踏まえた場合にこの金額の方もいらっしゃる可能性もありますが、もし平均的な金額でない場合は一番多い層をモデルとするべきと思うため、認識をお聞かせ願います。</p>
国保年金課長	<p>今回、モデルを年収300万程度に設定した理由につきましては、9ページの表にある7割軽減、5割軽減、2割軽減にぎりぎりかからない程度の収入として設定いたしました。</p> <p>委員ご指摘のとおり、ボリュームのある層はこの軽減がかかっている世帯であり、加入者の7割程度がいずれかの軽減を受けておりますので、今後の周知ではそういったボリュームを意識しながら、軽減というの見える形で周知することを考えていきたいと思っております。</p>

会長	<p>他に質問はございますか。</p> <p>無いようですので、まずは答申に適しているパターンを決定したいと思います。</p> <p>事前にいただいた皆様の意見と今の議論を踏まえ、今後はパターン①の「毎年度改定する」という方法に決定したいと思います但よろしいでしょうか。</p>
委員一同	異議なし
中川会長	<p>ありがとうございます。それでは、答申の内容をまとめたいと思います。</p> <p>江別市国民健康保険税の税額の改定について、令和7年度の税額は事務局から提案のあった税額とし、施行日は令和7年4月1日から、これに付帯意見として、毎年度適切な税額を検討することと、改定にあたっては加入者等への周知について十分配慮することを盛り込みたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
委員一同	異議なし
中川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、答申書の作成は、私と会長職務代理者である清水委員に一任いただき、後日、私から市長へお渡しすることにいたしたいと思います但よろしいでしょうか。</p>
委員一同	異議なし
中川会長	<p>それでは、委員の皆様のご承諾をいただきましたので、そのように市長へ答申させていただきます。</p> <p>以上で諮問事項について終了いたします。</p>
中川会長	<p>それでは、最後に、4その他について、委員の皆様から何かありますでしょうか。</p>
委員一同	(意見無し)
中川会長	無いようですので、事務局から何かありますか。
国保年金課長	<p>今回の諮問に対する答申をいただいたのち、2月上旬を目途に答申書の写し及び予算案の概要を郵送にてご報告したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
中川会長	<p>ただいま事務局より説明がありましたので、委員の皆様におかれましてはその旨お含みおきください。</p> <p>これもちまして本日の会議を終了させていただきます。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p> <p>閉 会</p>